

2014年

3月30日

瀬戸同胞生活情報誌

우리동네

第8号

◆編集・発行：瀬戸同胞生活相談総合センター

〒489-0805 愛知県瀬戸市陶原町1丁目57番地

TEL 0561-82-4674

FAX 0561-82-7855

2014年度 瀬戸支部合同新年会



2014年度総聯瀬戸支部合同新年会が1月26日支部会館で行われました。当日は20代から70代までの同胞45人が参加して、楽しく有意義な時間を過ごしました。

1部では総聯支部、李治雄委員長が金正恩第1書記の新年の辞に基づき今年の課題、特に我が国で強力に推進されている「国家開発10ヵ年戦略計画」について豊富な資料とスライドを使い分かりやすく講演がありました。2部祝賀宴では女性同盟が準備した鍋料理を食べながら祖国の発展や我々在日同胞を取り巻く情勢について皆で語り合い理解を深めあいました。やはり我々同胞はこうやっていろいろな機会に集まって、親睦を深めお互いに挨拶を交わし助け合う社会を世代が変わっても作っていかねばならないと強く感じました。

「朝青瀬戸支部で卒業生を祝う会」



3月15日、朝青瀬戸支部主催の卒業生を祝う会が瀬戸支部会館で行われました。第7初級学校出身で今年、愛知朝高を卒業した6人を含む20人の朝青員が参加をしました。鍋料理を囲みながら卒業生たちは祝う会を催してくれた朝青の先輩たちに感謝の言葉を述べ将来の夢や希望について語り合いました。進学、就職と互いの道は違うけれど瀬戸地域の未来を担う朝青員として今後とも積極的に活動をしていこうと活気に溢れていました。当日は朝青支部からのプレゼントが卒業生たちに手渡され、終始和やかな雰囲気で行われました。

6人の卒業生たちの未来に栄光あれ！

「高校無償化」、東京も提訴！



「高校無償化」制度の対象から除外したのは違法だとして、東京朝鮮中高級学校の生徒62人が2月17日、国を相手取り、就学支援金受給資格の取得を拒絶された精神的苦痛を被ったことに対する国家賠償を求めた。すでに始まった愛知、広島、九州を含め原告は249人だ。本来なら、青春を謳歌できる一番いい時期の高校生たちが、将来の進学や就職に悩みながら、それでも裁判に挑む決心をしなければならなかったのは、日本政府が差別の刃を朝高生に向けたからだ。頑張れ朝高生たち！一緒に頑張りましょう！

瀬戸地域・愛知県の行事スケジュール

- 4月 5日 (土) 愛知朝鮮中高級学校入学式
- 4月 6日 (日) 愛知朝鮮第7初級学校入学式
- 4月 12日 (土) 愛知県商工会結成60周年祝賀会 (名鉄ニューグランドホテル)
- 4月 13日 (日) 瀬戸同胞花見&焼肉交流会
- 4月 15日 (火) 「高校無償化裁判」第6回口頭弁論 (名古屋地裁) 午後1時「集合」
- 4月 27日 (日) 愛知県青商会「チョンサンフェスタ2014」愛知中高 午前10時

《2014年度・第7初級学校学芸会！》



＜第7初級学校学芸会＞が2月2日（日）瀬戸蔵つばきホールで行われました。歌あり、踊りあり、演劇あり、演奏あり幼稚園児から6年生まで一人何役をこなしたのでしょか？！みんなレベルが高いです。学生・園児たちは日頃の練習の成果を発揮し、素晴らしい公演をしてくれました。我々の心に沁みるものでした。学校教員の皆様、指導スゴハシヨッスンミダ。第7初級学校で学ぶ学生たち、園児たち素晴らしいです。チョンマルロコマッスンミダ。

愛知朝鮮第7初級学校第66回卒業式



第7初級学校第66回卒業式が3月16日行われました。今年卒業する4人の学生たちは6年間のいろいろな思い出をかみしめながら卒業式を迎えました。今年の卒業生4人は全員が6年間最優等生です。クラブ活動でもサッカーに舞踊に頑張りました。すごいです。謝恩会では卒業生のオモニ達小さいころの子供たちの写真をスライドに写し、子供たちが幼稚園から卒業の今日まで成長してきた過程を感慨深く語りながら暖かい雰囲気で行われました。4人の卒業生に輝かしい未来あれ！

金剛山に吹く統一の春風 北南離散家族再会事業！



北南離散家族の再会事業が2月20日から25日にかけて金剛山で行われた。北と南の家族らは、外国勢力により引き裂かれた悲しみの歴史を思い起こしながらも、共に前を向き、力強く生きて行こうと誓い合った。今回の再会事業は3年4か月ぶりに実施された。今年に入り、北側は民族和解の姿勢を積極的に示した。北と南の赤十字実務接触、高位級接触が実現した。その最初の成果が今回の再会事業であった。

金剛山は、家族らの再会を祝うように美しい雪景色に包まれた。民族和解の新たなプロセスが始まった。

編集後記

卒業あり入学あり就職あり、この季節は別れと新しい出会いと出発の始まりでもあります。別れが寂しくても必ずまた会えるのであればそれは一時的なものです。北南離散家族再会事業が行われた金剛山ホテルや金剛山面会所には、一度限りの再会で終わりと訴える家族の姿があった。「統一万歳」を声高に叫ぶ家族もいた。民族が分断され来年で70年を迎える。「また、会えますよね？」という別れの言葉に「必ず会えるよ」と言える現実を作らなければいけません。父や母が願った統一が息子である私たちに引き継がれました。私たちの責務は統一事業が次の世代に行かぬようにすることです。一人一人の力は小さいけれど北と南の人民、在日をはじめとした海外同胞が力を合わせれば必ずや実現できるでしょう。(李)